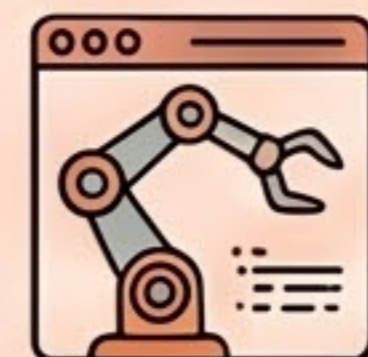




# 2026年最新比較：知財業務を変革するAIエージェントの実力

グローバルな技術競争の激化に伴い、知財部門は「特許件数の増大」と「人材不足」に直面。AIは自律的にタスクを遂行する「AIエージェント」へ進化。最先端の3ツールを比較分析し、適材適所の使い分けを提示する。



## Manus (汎用自律型エージェント)

📄 カテゴリ	汎用自律型エージェント
⚙️ 主要モデル	Claude Sonnet 3.7等
🛡️ セキュリティ	懸念あり (SOC2未対応) ⚠️
💰 価格体系	\$20~ (クレジット制)

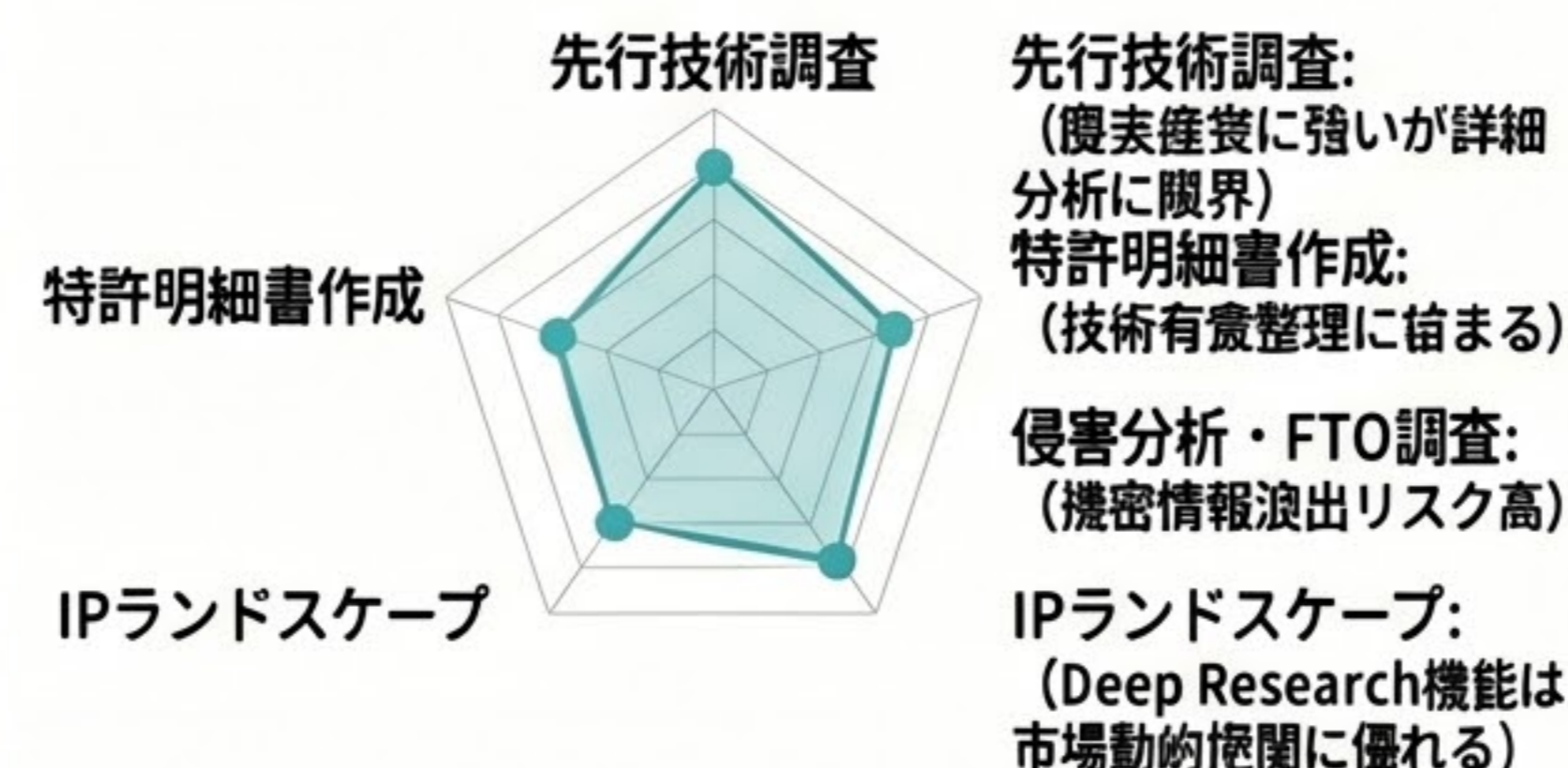
設計思想：汎用自律型、ブラウザ操作を得意とするアクションエンジン



## Perplexity Computer (マルチモデル汎用エージェント)

📄 カテゴリ	マルチモデル汎用エージェント
⚙️ 主要モデル	19モデル (GPT-5.2含む)
🛡️ セキュリティ	Enterprise版で対応 ⚠️
💰 価格体系	\$20~ (Pro/Team)

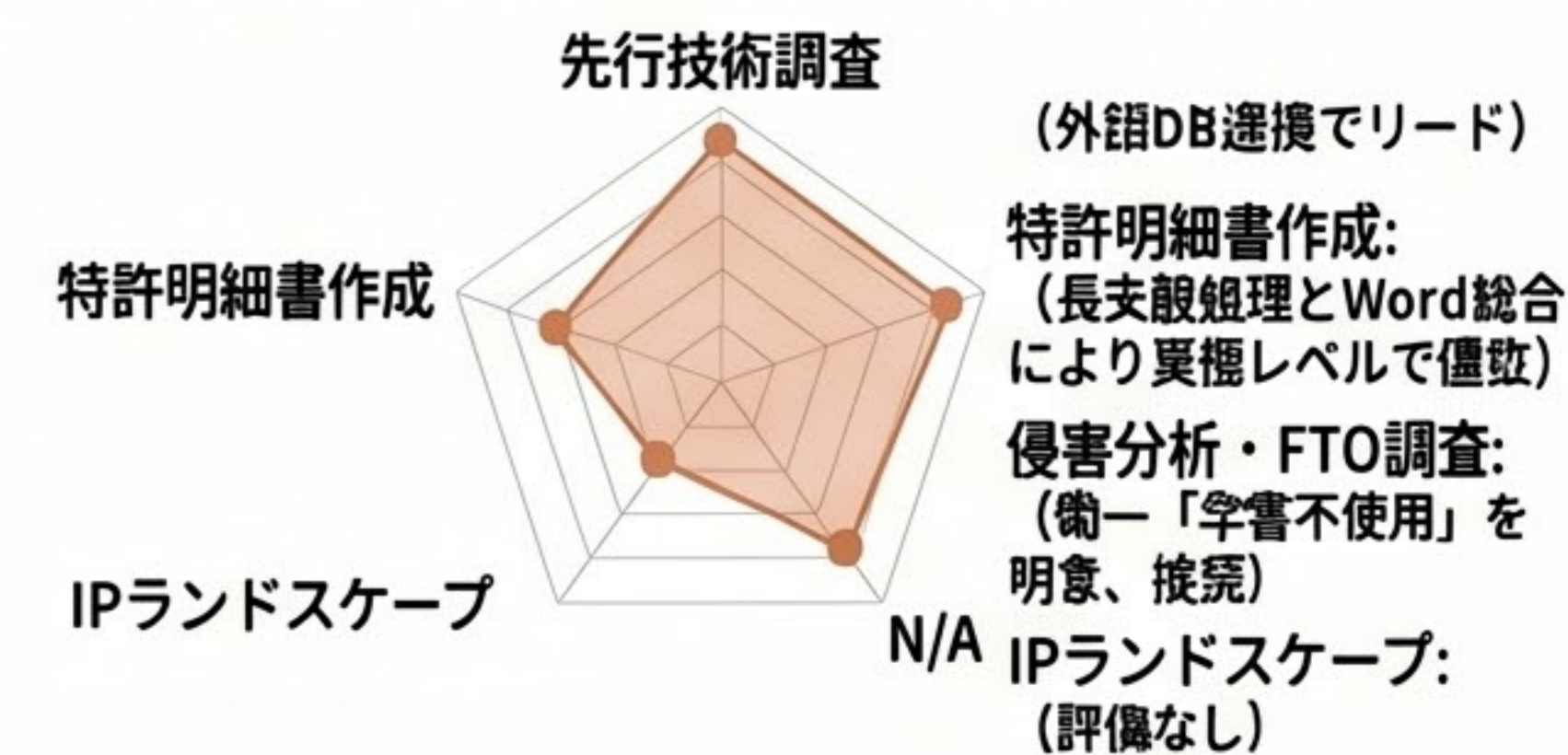
設計思想：マルチモデル統合型、19のモデルを統合したリサーチ特化型



## Claude Cowork (エンタープライズ向け)

📄 カテゴリ	エンタープライズ向け
⚙️ 主要モデル	Claude Sonnet 4.5 / Opus 4.6
🛡️ セキュリティ	最高水準 (AWS連携、学習不使用)
💰 価格体系	\$200~ (Maxプラン)

設計思想：エンタープライズ・デスクトップ型、法的正確性とセキュリティを重視



### 導入における3つの警戒ポイント

- セキュリティとプライバシーの壁**  
 Manusは中国系スタートアップ、未公開開発などの機密情報入力にリスク。
- コストの予測不可能（メーター制の罠）**  
 自働型エージェント（特にManus）は極限ループで拒時間費用が発生するリスク。
- ソース品質と検証可能性 (Verifiability)**  
 Perplexity等は公報とブログを向列に扱う傾向、専門家による検証が必須。

### 実務者への推奨戦略

- 定型リサーチ：Manusで自動化**  
 公開情報に基づく競合モニタリングなど、補完性が低く手間の作業に限定して使用。
- 初期調査：Perplexity Computerを活用**  
 機密情報を含まない範囲で、広範囲な技術動向や非特許文献の収集に使用。
- コア業務：Claude Coworkを中核に**  
 明細書作成、拒絶理由対応、FTO等の「法的正確性」と「機密性」を要する業務に採用。